

「善を行う熱心党」  
(ペテロの手紙第一3章8節～17節)

牧師：原 雅幸

序)「隙あらば善を行う」生き方を

- ・「熱心党 (ゼロタイ)」は、紀元 1 世紀の集団で武力をもって立ち上がり、隙あらば騒ぎを起こし、神の国 (=ローマからの独立) をもたらそうと希求していた。→ペテロは 13 節で「善のゼロタイ」ともじった。
- ・「善を行う」とは? 「平和を求め、それを追う」ために考えたい。

1) 社会の心臓としての教会・良い血液としてのキリスト者

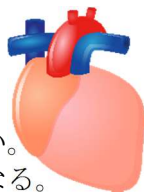
- ・血液がめぐって、筋肉が動く。働きの前に、心 (愛) が問われる。
- ・「A.一つ思いになり(ハーモニー)、B.同情し合い(共感)、C.兄弟愛(友愛)を示し、B'心の優しい(思いやり)人となり、A'謙虚でありなさい(目立ちたがらず、役割を果たす) (8 節) ※シンメトリー (対称構造: C が重点)
- ・善い行いの一般的な定義は「利他的行動」「公共の福祉のための行動」であり、形だけでも実行可能だが、聖書は「愛」がなければ、それを善とは呼ばない。また、他の目的が入り込むと「偽善」になる。

2) 愛の「低血圧症」を抱えた社会で

- ・ペテロの時代 (ローマ帝国は傍若無人で差別も多かった) には、例えば疫病患者をケアする者は皆無で、死を恐れずにケアしたのがキリスト者たちだった。→教会から始まり、善を行うシステムが社会の中で構築されるようになって、現代社会が成立している。医療福祉、教育、企業 etc
- ・形は整っているが、愛という血が通っているかが課題である。社会に慢性的な「だるさ」「閉塞感」が漂う社会は「低血圧症」と言える。
- ・神の愛に押し出され、社会の様々な場で愛の活力をもって働くことは現代の「善い行い」となる。また、社会の「冷え性」改善の余地はある。

3) 悪を祝福に替える循環～キリストの心臓～

- ・心臓は、動脈でエネルギーを送り、静脈で老廃物を運んで肺で、良いものに替える機能をもっている。
- ・完全な御国ではないこの世は、悪の吹き溜まりは避けられない。これを十字架の愛で祝福に替えなくては、社会は肺炎状態になる。
- ・神様は「(信仰による) 義人」に期待している。「善を行う人」ではない。



結) 様々な評価の中で、それでも

- ・善を行う私たちが福音を分かち合うのは二義的なこと。
- ・機会が与えられたら、自己満足が入り込む危険を覚えつつ神を証しする。

名前( \_\_\_\_\_ )

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① 貧しい人のための病院や学校を始めたのは、どんな人たちでしょうか。



② 悪口を言われた時、言い返さないために、どうしたらいいでしょう。

◆お話を聞いた後で、考えましょう。

③ 今週、あなたのまわりを平和にするために、次のことの中から、愛の心で(自分から)できそうなことを1つ選び、実行するのはどうでしょうか。

(善い行いのヒント)

- ( ) 道や順番をゆずる ( ) 道のごみを拾う ( ) 陰で人をほめる
- ( ) 自分が汚したのではない所を綺麗にする ( ) 花を部屋に飾る
- ( ) 笑顔で返事をする ( ) お見舞いの手紙を書く
- ( ) 面倒だとよく思うことを、「よし!」と引き受ける
- ( ) その他: 自分のアイデア \_\_\_\_\_



～教会クイズ (教理問答)～

Q037 「からだのよみがえり」を信じるとは、どういうことですか。

A037 イエス様が復活されたように、

の日に、イエス様と 栄光の体

をもって復活させられると信じることです。